

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ひかり三春教室		
○保護者評価実施期間	R7年 2月 3日		R7年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24名	(回答者数) 22名
○従業員評価実施期間	R7年 2月 3日		R7年 2月 13日
○従業員評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	年 月 日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・ 集団活動の中に、体を動かす事を意識した活動を取り入れている。活動を通して体幹を鍛えたり、バランス力を身に付けたりすることで、日々の生活での姿勢保持や危険回避が出来るような体作りを支援している。	・ 活動内容を話し合い教材を作成したり、動画を取り入れたりするなどの工夫をしている。 ・ 子供たちが興味を持って活動に参加できるように意識して計画している。	・ 体重の増加や筋力の弱さなど子供たちが持つ課題に対して効果的な活動を設定し、楽しく活動に参加しながら健康な体作りが意識できるようにしていきたい。

2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集団活動を通して、集団での生活のルールや幅広い年齢のお友達との関わり方を学ぶ支援をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達とのやり取りやルールの理解が難しい場合、その都度職員との確認を行い、少しずつ成長につながるよう支援を行う。 ・ 集団生活でのルールやお友達との関わりの中で、相手の話を聞く・間違った時には素直に謝れるよう支援している。 ・ 活動にゲーム等を取り入れる事でゲームのルールの他に「話を聞く」「順番を守る」「待つ」等の集団生活に必要な 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本人の意思の確認を行いながら進める中で、意思の表出が難しいと思われる場合には、カード等を取り入れながら、やり取りの幅を広げたり、その児童に合った表出方法を一緒に考え、取り入れる事でスムーズな支援に繋げていきたい。 ・ 集団活動やお友達との関りを苦手とする児童へは、関りが持てるように職員が間に入りアドバイスする事で、良好な関係の構築に繋げていく。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 室内が開かれた環境で、死角が少なく職員全体で子供たち一人ひとり状況把握ができています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子供たち一人ひとりの状況を目視で確認し、職員間で情報を共有する事で「孤立」「困り事」の見逃しがないように職員が臨機応変に対応できるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子供たちに、事業所内の生活スペースの用途を伝え、明確にする事で、子供たちが安心して過ごせる場所の確保をする。また、職員は環境設定に配慮しながら、よりの確な状況把握ができるようにしていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員の目が届き、死角がなくなるように教室内を仕切らずにスペースを大きく利用している。そのため、個別対応が必要な場面やクールダウンをさせたい児童がいる際の必要なスペースを確保できない時がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ スペースの有効活用ができていない。 ・ 集団活動での利用スペースが大きくなってしまふ。 ・ 教材・備品などの収納スペースが少ない。特に、トランポリン等の大型の教材もあり、スペースの確保が難しくなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教室内の配置やスペースの活用方法について話し合い、改善をしていく。 ・ 物の配置を変える等、構造化が図れるか検討し、子供が集中して物事に取り組めたり、クールダウンができる部屋の確保が出来るか考えていく。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 送迎の場所・距離・時間などから入所希望者の受け入れが難しくなることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 送迎場所が決まってしまうため、新しい方向への送迎が難しくなってしまう。 ・ 職員数や車の数を増やす事は、厳しい状況である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 送迎範囲を広げられるか職員間で話し合ったり、保護者との相談をしながら、出来る限り対応できるように進めていく。

3	・ 集団活動で個々に適した活動が難しい。	・ 年齢層に幅があり、活動内容のレベルアップ、個々のレベルアップが難しい。 ・ 工作活動等レベルを小さい子に合わせた物が多くなってしまふ。	・ 集団活動をしていく中で、個々のレベルを把握し、出来る所は見守りレベルアップを図り、出来ない所は手伝いレベルアップに繋げていく。 ・ 工作の作業工程を年齢などに応じて変える事で、出来る事が増えるよう支援をしていく。
---	----------------------	--	---